



セネガル共和国農村部の公立プライマリケアサービス提供施設に関する研究

著者	及川 みゆき
発行年	2018
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2017
報告番号	12102甲第8650号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00152624

氏 名	及川 みゆき			
学 位 の 種 類	博士（ヒューマン・ケア科学）			
学 位 記 番 号	博甲第 8650 号			
学位授与年月	平成 30年 3月 23日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当			
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科			
学位論文題目	セネガル共和国農村部の公立プライマリケアサービス 提供施設に関する研究			
主 査	筑波大学教授	博士（保健学）	市川政雄	
副 査	筑波大学助教	博士（ヒューマン・ケア科学）	岡本紀子	
副 査	筑波大学教授	Ph.D.	近藤正英	
副 査	筑波大学教授	保健学博士	安梅勅江	

論文の内容の要旨

及川氏の博士論文は、セネガル共和国の農村部でプライマリケアサービスを提供する公立の保健医療機関である保健センターと保健ポストにおけるサービスを改善するため、研究1では、施設で分娩ケアを受けた女性を対象に、ケアの質がケアに対する満足度にどのような影響を及ぼすか、研究2では、保健ポストを運営する保健委員会および保健委員会事務局メンバーを対象に、金銭的なインセンティブが保健委員会の活動にどのような影響を及ぼすかを検討したものである。その要旨は以下の通りである。

研究1で著者はまず施設における分娩ケアの質について、そのケアを受ける女性の満足度とケアを提供する側のパフォーマンスに着目しながら文献レビューを行った。次に、施設で分娩ケアを受けた女性 259 名を対象に行われた調査の二次データを用いて、その女性が評価したケアの質と満足度の関連を検証した。ケアの質は対人関係、情報、技術の 3 種類、23 項目のケアの有無について回答してもらい、その総量をケアの質とした。ケアに対する満足度は 5 件法で評価し、また次回も施設で分娩したいかどうか（次回利用）という観点でも評価した。そして、ケアの質を独立変数、ケアに対する満足度を従属変数、女性の特性や施設へのアクセスに関する変数を共変量とした多変量解析を行い、ケアの質と満足度の関連を検証した。また、従属変数を次回利用とした多変量解析も行った。

その結果、施設で提供された分娩ケアに対する女性の満足度は、「とても満足」が 45%、「満足」が 43%、次回も施設を利用したいと回答した人は 93%に上った。保健センターと保健ポストでこれらに差はみられなかった。ケアの総量は平均 56%であったが、ケアの種類によって異なり、対人関係がもっとも多く（71%）、情報と技術は約半数（50%、54%）にとどまった。ケアの満足度はケアの総量が増えるほど高くなり、次回利用も同様の傾向がみられた。ケアの種類別では、技術と対人関係のケアが増えるほど、ケアに対する満足度と次回利用の可能性が高くなる傾向がみられた。

研究 2 で著者はまず保健医療従事者のモチベーションに影響を与えるインセンティブ、保健委員会のパフォーマンスに影響を与える要因について文献レビューを行った。次に、金銭インセンティブが保健ポストの保健委員会事務局メンバーの活動量を増やし、保健委員会の運営状況もよいかどうかを検証するため、保健ポスト 52 施設を対象に調査を行った。活動量は事務局メンバーの月間就業日数とし、これを従属変数、金銭インセンティブの有無を独立変数、事務局メンバーの役職、在職期間、性別、行政区、職業を共変量として多変量解析を行った。保健委員会の運営状況については、保健ポストを管轄する保健区関係者が保健委員会のパフォーマンスを評価し、その指標を従属変数とし、独立変数は保健委員会における報酬制度の有無、共変量は政令遵守の状況、会計報告書の提出枚数、事務局メンバーの学歴、事務局メンバーと保健ポストスタッフの関係、保健ポスト長の経験回数、妊婦健診数、有資格サービス提供者の人数、行政区、事務局メンバーの選出方法、外部からの財政支援、月例会議の実施、女性事務局メンバーの有無とした多変量解析を行い、報酬制度の有無と保健委員会の運営状況の関連を検証した。

その結果、金銭インセンティブを得ているメンバーは受けていないメンバーと比べ活動量が高いことがわかった。また、職位が事務局長、会計、行政区がコミュン（市部）の場合も活動量が高くなる傾向があった。一方、保健委員会の運営状況については、報酬制度を導入している保健委員会と導入していない保健委員会で大きな違いはみられなかった。ただし、中等教育以上の学歴を持つ事務局メンバーの人数、事務局メンバーと保健ポストスタッフ間の良好な関係、有資格者数と運営状況に関連がみられた。なお、保健委員会の活動は全般的に不全で、調査対象の事務局メンバー 163 人中 60 人（37%）は保健ポストへ来ることはなく、月例会議を実施していた保健ポストは約半数（52%）にとどまっていた。さらに、活動計画策定率は 26%、毎月月間会計報告を提出していた保健ポストは 52 施設中 5 施設のみであった。

以上の結果から、施設では提供すべき標準的な分娩ケアが十分提供されておらず、その総量にバラツキがあったことから、対人関係においては有資格者と無資格者がチームを組んで分娩にあたることに問題はないといえるが、情報や技術のケアを拡充していくためには分娩件数に応じた有資格者の確保が必要といえる。一方、保健委員会の運営状況については、金銭インセンティブでメンバーの活動量は増加するものの、保健委員会の運営状況そのものには大きく影響せず、メンバーの資質によるところが大きいことから、著者はメンバーの役割、人選、待遇、さらには保健ポストの有資格者 2 名体制の確保による管理支援体制の強化を提案した。

審査の結果の要旨

（批評）

本研究対象国のセネガル共和国では、保健医療サービスに対する公平なアクセスを保障するため、農村部における保健医療サービスの質を向上することが課題になっている。著者はその解として、無資格者であるコミュニティ人材を最大限に活用しつつも有資格者 2 名体制が欠かせないことを提案、これはエビデンスに基づく政策提言として有意義といえる。

平成 30 年 1 月 10 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。